

## 第2回南足柄市立中学校「制服のあり方」検討委員会 の概要

1. 日時 令和3年7月12日（月） 18:30～20:00

2. 場所 南足柄市役所 5階 大会議室

3. 出席者 検討委員13名・事務局

### 4. 協議内容

(1) 第1回南足柄市立中学校「制服のあり方」検討委員会の概要の確認

○事務局でまとめた概要を全体で確認し、承認される。

(2) 各中学校の生徒の意見について

○3つの中学校代表の各委員から、次の2点について、生徒の意見を報告する。

① 検討委員会の「制服はあった方がよい」という意見について

3つの中学校とも、次の理由から、賛成が多かった。

- ・制服を着ると気が引き締まる。規範意識が高まる。
- ・制服によって学校の統一感が高まる。
- ・自分の学校に誇りがもてる。また、思い出に残る。
- ・小学生の時、制服を着るのが憧れだった。
- ・儀式用の服を買うことの費用が高い。
- ・私服だと、気持ちの切り替えがしづらい。
- ・家庭ごとの格差が出てしまう。
- ・毎朝、服を選ぶことは面倒で時間ももったいない。
- ・私服だと、家に帰らず遊びに行ったり、寄り道したりすることが増えるのではないか。
- ・社会人になったときに、場にふさわしい服装ができるようにしておく必要がある。将来のことを考えて、着方を学ぶことができる。

② 「現在の制服をブレザータイプに変更する」という方向性について

3つの中学校とも、次の理由から、賛成が多かった。

- ・機能的で、家で洗濯できるなど、多くのメリットがある。
- ・LGBT等に対する配慮は大事である。
- ・スカートとスラックスの選択ができ、気温により調節できるのがよい。
- ・暑い日はスカート、寒い日はスラックスなど、日によって選んで着用することが可能になるといい。
- ・学生服の詰襟のホックが苦しい。
- ・セーラー服は、ホックとボタンの数が多く、着脱が面倒。ポケットも少ない。
- ・現在の制服だと、冬は寒いので、温度調節しやすいものがよい。
- ・夏のポロシャツは、着やすく、動きやすい。統一感を出すなら、一色にして、白がよい。
- ・ネクタイやリボンは、あった方がよい。3校で色分けするとよい。
- ・動きやすいものにすると、災害の時に逃げやすい。

○報告を受けた他の検討委員からの意見

- ・ 実際着用している中学生の現実味のある意見が聞けた。
- ・ 子どもの希望に沿える制服だとよい。
- ・ 多様な性のあり方に関しては、自分の中に秘めている子、保護者にも言えない子がいるかもしれない。保護者がケアして、このことを認識して選ぶならよいが、子どもの気持ちを知らずに親が制服を選んでしまうことがないようにしなければならない。
- ・ 多様な性のあり方で悩んでいる子がいた場合、本人、保護者と話したり、カウンセラーと相談したりと、細かく丁寧に対応することが大切である。
- ・ カミングアウトは、デリケートなことである。強要してはいけなし、本人のタイミングで行う必要がある。スラックスかスカートを選ぶことも、カミングアウトの強要になるかもしれないので、何種類かの中から選べるようにしてはどうか。

(3) 南足柄市立中学校「制服のあり方」に係るアンケート（第2回）について  
アンケート用紙（案）の記述内容について協議を行う。

① ポロシャツに関する記述について

- ・ 統一されたものか、市販のものかによって、考えが違う。どのようなポロシャツなのかを加えた方がよい。
- ・ ある程度の指定をした上で、量販店でも購入できるポロシャツという内容を加えるとよい。
- ・ 質問項目のⅢの質問1と2の順番を変更するとよい。

② 制服を変更する場合の時期や、対象学年について

- ・ 変更時期は、現在小学校6年生の子どもや保護者の意見を尊重し、反映できるようにしたい。
- ・ 3年間を移行期間とし、新旧の制服が混在するのは仕方がない。
- ・ 既に現在の制服を着ている子どもたちは、新しい制服を着てもよいかどうかについては、多様な性のあり方への配慮の観点から、個別に対応した方がよい。一方で、買い替えると保護者の経済的な負担が大きくなることに留意すべきである。
- ・ 現在の制服を着ている子どもたちが、新しい制服を着てもよいとした場合、新しい制服が流行ってしまい、制服を変えない生徒が、「流行遅れ」のように見られないようにすることが大事である。
- ・ 多様な性のあり方の観点から、少数の子どもだけ制服を買うと目立ってしまうので、「誰でも買ってよい」と知らせればよいのではないか。
- ・ 経済的な面で考えると、現在の制服を着ている学年が、新しい制服を買うのは難しい。
- ・ どういう子どもを育てたいのか、という思いをもって、制服のあり方を検討していく。子どもたちにも、自分の意志を持って、考え、判断させることが大切。流行に影響を受けて買い替えを希望するのではなく、衣服を大事にすること、親に負担をかけないこと、総合的に判断できる子どもたちであってほしい。

#### (4) まとめ

○検討委員会で確認した次の方向性について、再度、アンケート調査を行い、保護者の意見を聞いたうえで決定することを確認する。

##### ① 新たな制服の方向性

- ・ 自宅で洗えるものとする。
- ・ スカートやスラックスを選ぶことができるブレザータイプのものにする。
- ・ 機能性が高く、動きやすいものにする。
- ・ できるだけ、経済的負担が少ないものにする。
- ・ 暑さ、寒さに対応するため、調整しやすいものとする。(ブレザータイプにすることで、上着を脱いだり、下にセーターを着たりできる。)
- ・ 既に現在の制服を利用している(持っている)生徒は変更しなくてよいこととする。
- ・ 制服を変更する際は、3年間程度の移行期間を設ける。(新旧の制服を併用できる)

##### ② 「制服はある方がよい」という方向性

- ・ 入学式、卒業式等の行事や高校の入学試験等においては、フォーマルな服が必要となる。  
(場面に応じて、フォーマルな服を着ることを学ぶことが学習指導要領で定められている)
- ・ 日常生活を私服にした場合、服を購入したり、選んだりする手間がかかり、費用もかかる。
- ・ 制服をなくし、各家庭でフォーマルな服を用意すると、さらに費用がかかる。
- ・ 神奈川県内 407 の中学校で、制服をなくし私服にしているのは 11 校のみであることから、中学生には一定の規準を設けた制服があった方がよいと考えられる。  
(制服着用にあたり、細かすぎたり、厳しすぎたりする決まりは見直すとよい。)

##### ③ その他の方向性

- (1) ブレザー、スカート、スラックスは、市で統一するが、シャツ、ブラウス等は、白を基調としたものであれば、量販店等、市販のものでよい。
- (2) 夏はシャツ、ブラウス等に加えて、ポロシャツの利用を可とする。
- (3) 中学校 3 校で同じ制服とする。(これにより価格を安くする)  
※タイやリボンの色等によって、学校間の違いを表すなどの工夫をする。

##### ④ 制服を変更する場合、新しい制服を導入する時期について

- ・ 導入時期についても、アンケートで保護者の意見を聞いて決定する。